

コートとり当番担当クラブ

9月 10月分のコート 東住B

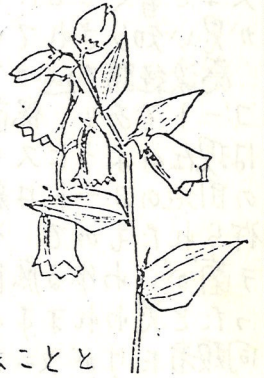
10月 11月分のコート 恩多A

11月 12月分のコート 本町B

発行責任者 柳 利夫  
 住所 東村山市萩山町  
 5-6-26-301  
 Tel. 0423-92-8808  
 編集責任者 川村英明



## 「楽しかった 夏期合宿」



今年は例年にくらべて、参加人員は少なかつたのは、残念でしたが、参加した会員は、それぞれに収穫をいっぱい得たことと思います。

← 武谷技術コーチをかこんで楽しい夕食のひととき  
 於 那須グリーンウッドテニスランヂ

## 合宿に参加して

本町クラブ 中川 富

初めてラケットを持ち、市民テに入部してからちょうど二年が過ぎました。少しでも上手になりたいものと、いつしようにけんめいやつていても、なかなか上達せず、半ばあきらめ気味、むしろテニスの後のビールを楽しみに汗を流していました。

市民テの合宿の話聞き、こんな下手でも相手をしてもらえるか一抹の不安はありましたが思い切って参加しました。参加してほんとうによかつた— 第一に、自分のくせが自覚できたこと。技術部長の武谷さんの特訓で「なるほど」と手ごたえがあつたこと、この感覚を忘れないようにと思ひながら試合になると、自分のくせが出ます。これをのり越えて更に精進したいと思ひます。第二に、日頃の悩み、職場、家のことを忘れてテニスに熱中できたこと。合宿中、新聞、テレビのあることを忘れ夢中で楽しんだこと。第三に、夕食後のひとときテニスのこと、趣味のこと、夜のふけるのも忘れ十二時、一時まで語り明かしました。これが合宿の醍醐味ではないでしょうか。テニスをやる人はみんな人間的に暖かみのある人だなあと再認識したものでした。第四に、会長、事務局、技術部、広報の方々が市民テの運営について真剣にとり組んでおられること、今では四百人の多数の会員をかかえられた五面のコートでの効果的な練習、技術指導など、できるだけ会員の満足が得られるよう、その要望を如何に集約するか、どう対処していくか、ご苦労の多いこととです。第五に、市民テの充実発展のために、定期練習が終われば、「ご苦労さん、さようなら」でなく、もっと対話のある市民テにしたい、そのためには、将来クラブハウスなど、又会員の数だけでなく内容の充実した市民テに、などなどこれから発展のための抱負が語られました。

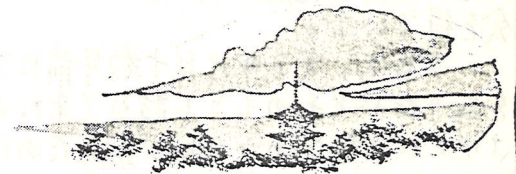


実らせます。  
 きつと。

...合宿初体験...

本町クラブ 志村 陽子

今年の一月に市民テに入り、初めてラケットを持つという状態の私、合宿というものに体がついていけるのかな? という不安と旅行の話のない私にとって唯一の楽しみでした。合宿生活が始まり二日目に筋肉痛におそわれ、はじめて手に豆を作りました。それにしても、夜遅くまでミーティング(?)をし、早朝練習の六時起きは、私にとってまく体がもつたと感じています。初めて会った人達なのに心が開き、励まされたりされたおかげだと思ひています。テニスの成果はと聞かれると言葉がつかまってしましますが、コーチに個人的に指導していただき自分の悪い所が的確にわかりました。その場はわかり、ボールが気持ちよい音をたてて飛んでいくのですが、東村山に帰って...と思うと少し自信がありません。でも常にコーチの言葉を忘れずと思ひています。ポイントとり方もわからずに行つた試合、食事の楽しい雰囲気、帰り道の雨の中のアジサイの鮮やかさ、どれも私にとって素晴らしい思い出になると思ひます。来年は皆さんも参加してほしいと願ひます。まよまりませんが参加して良かった!と自信をもって言える合宿でした。





# 私とテニス

-No. 46

吉永 洋司 (思多クラブ)

私が社会人となってまもないある日曜日、初めてあのケバケバボールをラケットで打った瞬間から恐ろしい「スニテ菌」に感染し、真性テニス熱中症に犯されて早十数年。「私とテニス」を書くことになっていかにこの熱中症が不治の病であるか思い知らされています。

感染経路を辿ってみると、場所は東久留米市のある団地のコートであり、保菌者は私の中学時代の恩師でした。その頃は現在のようにスニテ菌は全国的にまんえんしておらず、この団地のコートは新しい集合住宅作りのモデルケースとして作られたもので、それまで特定のクラブで繁殖していたスニテ菌がいわゆる庶民の中に深く侵攻し始める「はしり」であったと思われまます。学生時代は野球菌におかされ、女性及び同類者だけが「スニテ菌」に感染すると思っていた私ですが、感染するやいなや、その発病ぶりは驚くほど早く全身症状として現れ、休日ともなれば日の出と共に活動を開始し、夕方人の姿も定かでないまでボールを追いかけ、家に帰って初めて、朝から固型物は何も口に入れていなかったことに気付くという恐ろしい食事拒否症も併発していたのであります。この様な症状は、特にこの菌に犯されて二、三年目までの人にいつそう顕著に現れるようで、現実最近、最も身近にいる者が激しい発病症状を示しているの、冷静に観察する機会を得ています。

この者は、実を申せば十数年前に「スニテ菌」なるものの正体を知りたいと私のもとに訪ねて来たのでありますが、また「若さゆえに未熟であった私が教えたのは、どうも全く別の細菌であつたらしく、私の「スニテ菌」をも数年間鎮静化させ、結局は男としての自由を奪った憎くきバイ菌でありました。

一方うつされた者の方はこれまた、最近、「私があの時、「スニテ菌」の方に感染していれば今頃はさぞ華麗なフォームでコート上を舞っているであろう。」等とはざいているのですから始末におえませぬ。

この様な経過を辿って「スニテ菌」の活動も小康状態を保ちながら年を重ね、安息の地を求めてこの東村山に越して来たある日、その数、数百人という集団感染者を擁する世にも珍らしい市民テニスクラブに足を踏み込んだのが運の尽き、私の熱中症の症状は、再び悪化の一途を辿り今や第三期の末期症状といわれる熱中盲目症にまで進行しつつあります。

ただ如何に熱中盲目症と自認している私でも、因体的コンディションの悪い時は練習もなるべく控之目にしていきます。というのは、十年近くも前になりますが、当時65才の素晴らしいテニス仲間を目の前で失ってしまったからです。

あれは八月初め、朝から暑い日射しが照りつけるコートで私の横で汗を流して打っていた氏が、「調子がおかしいのでちょっと休む。」と一言、木陰に腰をおろして数十分後、氏はこの世の人ではなくなっていました。以前から高血圧気味であった事、数日前からの仕事の無理、加えて酒量が増え重んじていたとのことでした。テニスを共に愛し、楽しむ仲間としてこんな悲しい事はありませんでした。これから夏を迎えていよいよ力が入るところですが、この時期になるといつもあの日の事を思い出し、最良のコンディションでコートに出るよう心掛けています。



## 対外試合奮戦記

思多クラブ  
山口悦子

最近、少し目覚めて、テニスを楽しむ時間が多くなっている。腕が太くなる一方で、技術面はさっぱりである。これぞと思う時の決めの一手がつかめず、つい振りすぎたり、カミすぎたり、今だにボールに振り回され通しである。

ダブルスの時は、相手によって勝つ事もある。これは決して私の技術のせいではなく、相手が如何にミスをしてくれるか、もしくはペアのおかげである。

或る日、女子連のシングルの試合に申し込んでみた。自分をためす積りもあったが、いつもペアに「ゴメンネ」の言い通しであるバツの悪さから逃れてみようと思ったからである。しかし、すぐ人に頼ってしまう自分の性格ではとてもシングルの試合は苦しかった。でも、もしかしてとささやかな期待を胸に、いそいそと出かけた。

石神井ローンだった。シングルの戦法としては、自分に有利なボールが来るように、センターを狙うと良い事を聞いた。根が素直というか、馬鹿というか、常に相手に打ち易いボールを送っていた。お相手は、高井戸ローンの方だった。如何にも強そうなボールを打ってくる。でも練習の時は、ラインオーバーが多く、サーブは全部ネット。これはシメタ！なんて野心を起こしたのがいけなかった。

相手が先行。1ゲームは1-0 (40-30)、2ゲームはジュースで取った。1-1, 1-2, これは調子がいいぞ！嬉しくなった。この気持ちのゆるみがいつもいけない。結局1セットは6-4で負けた。3セットマッチである。今度こそ強気になってみたが、やはり相手もすぐ調子にのって来た。私の下手な戦法をすっかり読み取られてしまった。6-2でまたもや完敗であった。

疲れがどっと出てきた。足取り重く、物足りなく、不満顔で帰宅したのだった。これが決勝戦であったならば...と思う。決勝戦なんて夢々々々...いくら頑張っても私の前には決して現われることはないと思うと本当に淋しいですね。



## 会員の消息...

東住 クラブ	・休部	山口迪郎	山口信子				
	・退部	山口信弘					
思多 クラブ	・休部	水越幸博	岡田忠彦	高橋るみ子	松本恭介		
	・退部	渡辺万知子	栗西邦子	栗西優子	笹野淳子		
本町 クラブ	・休部	加藤寛	山本林子	矢守章			
	・退部	肥沼裕子	栗原陽子	平山隆浩	隅田明之		
青葉 クラブ	・休部	大武利治	高瀬永臣	久保めぐみ	富岡昌江		
	・退部	米田聡	持田正子	橋本大三郎	橋本まさみ	熊倉由紀子	田中理
美住 クラブ	・休部	河野好太郎					
	・退部	八木隆夫	洋子	裕一	健二 (転居)	大柿走津子	友部真一